

平成29年第1回  
総務文教常任委員会

# 所管事務調査報告

日 時：平成29年1月11日(水)  
午前10時00分～

調査内容：生涯学習課所管事務調査  
あつかし歴史館視察

出席者：総務文教常任委員  
傍聴者1人（産業建設常任委員）

国見町議会

松 浦 常 雄 委員長 . . . . .	2
浅 野 富 男 副委員長 . . . . .	3
東 海 林 一 樹 委員 . . . . .	4
八 島 博 正 委員 . . . . .	5
佐 藤 定 男 委員 . . . . .	6
松 浦 和 子 委員 . . . . .	7

# 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

平成29年1月18日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

【日時】平成29年1月11日（水） 午前10時00分～11時30分

【調査事項】生涯学習課所管事務調査「あつかし歴史館」視察（旧大木戸小学校）

## 【調査内容・感想】

### 1. 「あつかし歴史館」設立までの経緯

平成24年	3月31日	大木戸小学校閉校
	11月	旧大木戸小学校施設活用検討委員会設置
平成25年	7月	旧大木戸小学校校舎活用策定委員会設置
	11月	大木戸築校舎活用に関する中間報告説明会
平成26年	12月22日	大木戸築校舎活用にかかる築説明会
平成27年	12月7日	工事着工 工事請負：有限会社 岩崎 設計監理：有限会社 フォルム建築計画
平成28年	8月	工事完了・完了検査
	9月	愛称募集 「あつかし歴史館」と決定
	10月	「国見町文化財センター条例」施行
	11月9日	国見町文化財センター運営委員会設立
平成29年	1月10日	オープン記念式典

### 2. 調査の結果

- (1) 「あつかし歴史館」設立の企画からオープンまで、関係の方々が地元の方々へ説明をし、協力を得て、史跡や歴史的文化財の豊富な大木戸の地にふさわしい施設が完成したことは、喜ばしいことである。
- (2) 施設ができ、展示品も工夫して展示されていた。今後展示品の整理はこれからの課題である。多くの人手が必要であると思うので、郷土史研究会の協力を得ながら整理を進めてほしい。
- (3) 歴史文化財センターとしての性格から、まずは、国見町の歴史を概観できる説明が重要であり、担当者の認識は正しいと思った。
- (4) 大木戸には、国の史跡の阿津賀志山防塁がもっとも重要であるが、岩淵遺跡のような太古の遺跡もあるので、これらの展示もしてほしい。
- (5) 「あつかし歴史館」のような施設は近隣になく、来訪者は多くなると思う。
- (6) 町内の他の地区の発掘品も展示できるようにしたい。
- (7) 現在の施設の建物耐用年数を考えると、将来的には、もっと大きな、しっかりした建物に建て替えることも今から考えておく必要がある。

## 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

平成29年1月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

【日 時】平成29年1月11日（水） 午前10時00分～11時30分

【調査事項】生涯学習課所管事務調査「あつかし歴史館」視察（旧大木戸小学校）

### 【調査内容・感想】

総務文教常任委員会は平成29年1月11日、午前10時より所管事務調査として国見町文化財センター「あつかし歴史館」について視察した。

本館は1月10日に開館式を終えたばかりだ。あつかし歴史館はこれまで国見町が所蔵していた文化財を閉校となった大木戸小学校の一部を改修して展示をし、町内外に国見の歴史、文化を伝えようとするものである。また地域の核でもあった小学校がなくなることに代わる地域のよりどころとして集える場所となることも設置の目的の一つでもある。なお「あつかし歴史館」の名称は町民からの公募により決定した。

「あつかし歴史館」は旧大木戸小学校の正面玄関、校長室、職員室、保健室、図工室を改修したもので、国見町文化財センター改修事業として実施したものである。これまでの事業費は約5千万円で、27年度からの継続事業として取り組まれ28年度に改修事業は終了、開館の運びとなった。特に展示室には貝田産の木材がふんだんに使われており、木のぬくもりを感じさせる造りで小休憩もできる部分も設けられている。

担当課の説明では、所蔵品を収納する容器がまだ調達されていないことから、その多くがまだ収蔵室に運ばれていないために、展示品を揃えるのはこれからという事だった。また所蔵品の整理作業についてもまだ残されている。

運営は臨時職員1人とサポーター10人の体制で発足しているが、サポーターについては今後研修等を行う事、また人数の増減についても変動があるとのことだった。施設の利用時間は、午前9時から午後4時30分までとし、毎週月曜日が休館日（祝祭日の場合は翌日）となる。

今後、国見町の歴史、文化の発信基地として各種の催し物の開催をしながら宣伝を強めていく事、地域の人がいつでも気軽に立ち寄れる施設となること等を目標に工夫を凝らすことが必要と思う。

# 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

平成29年1月19日

国見町議会議長 東海林一樹

**【日時】**平成29年1月11日（水） 午前10時00分～11時30分

**【調査事項】**生涯学習課所管事務調査「あつかし歴史館」視察（旧大木戸小学校）

## **【調査内容】**

羽根生涯学習課長から歴史館の施設の概要と総事業費、その財源などの説明を受け、その後歴史館運営方法、ボランティアで運営に協力してくれるサポーター10名の役割などの説明を聞き、その後に館内を視察した。

## **【感想】**

館内に現在展示されている展示品数が少なすぎて歴史館を訪れた人は期待外れと思うのではないかと感じた。文化祭に郷土史研究会が発表した「灯りの歴史」hが展示されていたから余程良かったが、今後何をどんなふうに展示するのか大いに検討する必要があると感じた。

## 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

平成29年1月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【日時】平成29年1月11日（水） 午前10時00分～11時30分

【調査事項】生涯学習課所管事務調査「あつかし歴史館」視察（旧大木戸小学校）

### 【調査内容・感想】

去る1月11日午前10時より、総務文教常任委員会でこの度オープン（10日）したあつかし歴史館を視察研修しましたので報告します。

大木戸小学校の並行後の再利用を目的に作った施設で、“あつかし歴史館”及び地元の人々のコミュニケーションが出来る場としてオープンした。オープンを記念しての展示や防塁についての展示をしていたが、今後催し物を中心にどのような運営をするのかは今後の課題だと思う。

文化遺産の収集や収蔵等は、今後整備されてからでないといけない面がある。併設されている地元の人々のコミュニティーセンター的な役割の集会所としての役割も、今後の運営次第と思えた。

ただ、施設は立派に出来たので、地元の運営委員と共に有効に利用出来るものになればと思い、今後を見守っていきたい。

# 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

平成29年1月12日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【日時】平成29年1月11日（水） 午前10時00分～11時30分

【調査事項】生涯学習課所管事務調査「あつかし歴史館」視察（旧大木戸小学校）

## 【調査内容】

1. 施設の概要（旧校舎1階面積の約3分の2：350㎡）
  - 研修室1（旧校長室）・研修室2（旧保健室）
    - ・会議や研修の場として利用可能。研修室2は特設展示場としても利用可。
  - 展示スペース・ガイダンススペース（旧職員室・一部廊下）
    - ・県産材（貝田の木材）を使用しており、温かみのある空間となった。
    - 展示見学だけでなく、地域の方の語らい、茶飲み場としても活用できる。
  - 整理作業室・収蔵室 \*バックヤードとして非公開
    - ・出土した土器などを整理し、町の文化財を保存・管理する場所として使用する。
2. 事業費の概要
  - 総事業費 49百万円、財源は国・県支出金25百万、基金24百万円。  
維持経費は光熱費、警備費、印刷費等700千円を見込む。
3. 施設の利用
  - 休館は毎週月曜日（ただし月曜が祝日・休日の場合は翌平日に休館）
  - 開館時間は9：00～16：30
  - 月～土は専任の説明員が対応、日曜日はサポーター（10人）が従事する。

## 【感想】

- ・旧大木戸小の有効利用として国見の文化財が展示され、町内外の人が歴史に触れて理解を深めることは大きな意義があると思う。
- ・まだ展示物が少ない感じだが、今後整理をして徐々に増やしていきたいということであり期待する。

# 総務文教常任委員会所管事務調査報告書

平成29年1月17日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

**【日時】**平成29年1月11日(水) 午前10時00分～11時30分

**【調査事項】**生涯学習課所管事務調査「あつかし歴史館」視察(旧大木戸小学校)

**【調査内容】**

平成24年に閉校の大木戸小学校が地元町民の意向を受け、本年1月10日に国見町文化財センター「あつかし歴史館」としてオープン。

生涯学習課担当職員より

- ・施設の概要
- ・事業費の概要
- ・オープンまでの経過

について説明を受け、その後、館内を視察した。

館内は県の森林環境交付金で貝田産の杉の木をふんだんに使用しており、歴史館に相応しい作りであるという印象を受けた。北側窓からの阿津賀志山の眺めは来館者をあっと言わせる魅力の一つになるのではと思う。また、オープン記念イベントとして、1月中は郷土史研究会が文化祭で展示した、歴史や時代を思い起こさせる灯りの展示を、また1月14日(土)には講演や体験学習を企画しているとの説明を受けた。

**【感想】**

年間の来館者見込みが1,000人とのことだが、単独施設としてはかなり厳しい数字と思う。

「道の駅国見あつかしの郷」や防塁を中心とした阿津賀志山周辺の見所や、貝田地区の春と秋の祭礼、地区の歴史あるお寺、また桜や中尊寺ハス等、四季を楽しめるポイントと上手に結びつけて行けば、クリアできる数字ではないかと考えられるが、「歴史館」のニュアンスそのものが地味な印象であり、今回視察した内容では常設の展示物も少なく、面白みもなく、集客の魅力に欠けていると感じた。

建物を残して欲しいという地元の意向を受けて整備された経緯もあるので、行政との連携を図りながら大木戸・貝田地区の皆様が中心となつての企画を積極的に行つていただき、歴史の町国見を「あつかし歴史館」から発信していただきたいと思う。総事業費49,327千円の「あつかし歴史館」が負の遺産にならない努力に期待している。